

乳房切除術後に、 術後化学療法を受けた Cさんとお子さん

(学童期、思春期、青年期 三人)

子どもから、「海よりも深く、空よりも高く、宇宙の果ての、ずーっと、ずーっと先まで、ママのことが好きだから、早く元気になってね」って言われたんです。

看護師 お子さんに病気を伝えたのは、退院してからですね。その時はお子さんたちみんな泣いたと聞きました。大変でしたね。Cさん 長男は、「大人の様子がおかしかったから、おばあちゃんとか、お父さんとか。だから、きつと悪いものなんだなって思っていたよ。まあ、でも、手術したから、大丈夫なんでしょ？」って。私が自分のことで精いっぱいだったので、そんな感じですらっと。長女も何となく、そうなのかな（悪性）って思ってた。一番下だけが、ぜんぜん分かんなかったみたいで。一応私も明るく、休みの日に朝起きて朝ご飯食べさせて、テレビをみんなで見ている時に、あ、今かなって思って、「お母さんね、実は、ほら、入院してたでしょ？ あのー……、乳がんだったんだよ」って、話をその時にしました。ただ、その、なんだろう、

ちょっとこう……ごまかして、「でも、すごく軽かったから、全部ね、念のために全部おっぱいは取ったんだよ」って、「だから、大丈夫だからねって、予防のために、今から、抗がん剤するから」って言ったんです。「抗がん剤っていうのを、髪の毛が抜けたりするんだけど、でも、髪はまた生えてくるから大丈夫だよ」って。それで子どもたちが、もう、わあわあ泣き出すから、「でも、そういうのしないで、悪くなくても困るよね？」って言って……。それで、今は、上二人は大丈夫。もうほぼ治ったんだよねっていう感じで。でも、下の子だけは……。上の子は大丈夫だろうって思ってた、下の子が少しちょっと、すごく心配性の子だったから、言いたくないなって思っていた。それ（乳がん）言うてから、夜寝る時に、私のベッドに来て布団かけて私の頭を撫でて、何回も戸締り確認して私に、「○○（下の子）ちゃん、ママのこと、世界一愛してるよ」って。なんかほんと、毎日のように枕元に来て、私が子どもを寝かせるんじゃなくて、子どもが、私のことを寝かせるって感じで。そう、ほんとに、



〇〇から、「海よりも深く、空よりも高く、宇宙の果ての、ずーっと、ずーっと先まで、ママのこと好きだから、早く元気になってね」って言われたんです……。でも、ほんとう、それが、なんていうんだろ、たぶん子どもがたぶん精神的に一杯一杯なんだと思うんだよね。だから、一通りのことをしてからじゃないと、落ち着いて、寝られない？ 感じになっけていて。朝学校に行く時間なんか、振り返り、振り返り毎回、「行ってきます、大丈夫だよね？」って、初めて言われた時は、何が大丈夫なんだろう？ と思っただけ。でも、いろんなことが、「大丈夫だよね？」って、いう感じで。だから、「大丈夫、大丈夫だよ〇〇ちゃん、行ってらっしゃい」って言うと、ずっと、

「行ってきまーす、行ってきまーす」って言いながら、家から離れて、こんな小っちゃくなるまで、「行ってきまーす」って言うていて。だから、ちょっと下の子だけが今のところ、ちょっと心配。だから、あんまり具合悪いって言うていられないし、ほんと、私が買い物する時なんか、だれも一緒に行かないってなると、その子が、絶対付いて行かなくっちゃって付いて来て、カートを出してカゴ入れて。それで、帰りも持ってくれて。そんな感じかな。

看護師 病気がことが、漠然と怖いのでしょうね。

Cさん 怖いみたいで……。そう、でも、もともと、幼稚園入るぐらいから、上の子はそんなことなかったんだけど、なぜかこの子だけが、「自分が大きくなりたくない」って言うんだよね。「もうこれ以上大きくなりたくない」って、幼児期なのに。〇〇に、「なんで？」って聞いたら、「ママが大きくなって死んじゃう……。おばあさんになっちゃうのが嫌だって、ママが年とるのがいやだから、〇〇ちゃんも、大きくなりたくない」って。だから、私はその時に、

「ママは、素敵なおばあちゃんになるから、安心してね」って言うて。その子だけが、どちらかというと、ママと一緒にいたいっていう、ちょっと私にべったりな子だったんですね。

看護師 下の子は、少し甘えん坊さんなのかもしれないね。

Cさん そんな感じですよ。今は、だんだんと、だんだんと、ちょっとずつ落ち着いてはきたのかなって思っけて。

夫の協力は少しづつ良くなりましたよ。前よりはよっぽど役に立つ(笑)。

看護師 少し、時間がかかるのかもしれないね。旦那さんとは、(子どものことについて) そういう話はしましたか？

Cさん うちの主人、朝行ったら夜の十一時とか十二時にならないと帰って来ないの。帰って来ても、ゆっくり話をする時間もなく、ご飯食べて、お風呂入って、寝るって感じで。金曜日は十二時過ぎに帰ってきて、次の日はちょっと一週間の疲れが溜まっ

ているから、午前中までバートと寝て、午後また仕事に行ったりするんです。なかなか、子どもがいない時に話をするっていうことがないし。うーん……、だから、おかげさまで、退院する時に、看護師さんから主人に話してもらって。ありがとうございますました(笑)。

看護師 旦那さんは、忙しい中少ない時間でCさんに協力してくれているんですね。

Cさん はい。ゴミ出ししてくれたりとか、あと、大変そうな時とかお休みの時とか、洗濯物をしてくれたりとか、前よりはよっぽど役に立つ(笑)。

看護師 病気のことはどうですか？ 夫婦で話したりしますか？

Cさん あんまり。病気のことも、「あ、そうなの？」みたいな。だから、この後の治療についても、確か先生と一緒に聞いたはずなのに、「え？ そうだったの？」とか。「これが終わったら、終わったで、放射線があるんだよ」って言ったたら、「え？ そうだったっけ？」とかって言うから、ただ一人だけ人の話聞いてないんだって、イラっ！ときます。でも、ま、素がそういう人だな



と、忙しいからと、思うようにして(笑)。まあね、あんまり心配されてもね、まあいいのかなあとは思って(笑)。

看護師 旦那さんなりに、少しは協力してくれるのですね。

Cさん 少しづつ、良くなりましたよ。ほんとに。なんにもしない人だったので。冷蔵庫開けて、閉めて、「何か飲みたい」って言って。「えっ?! 今開けたんだから、取ったらいいじゃない?!」って思うんですよ。ええ？ 何のために開けた？ みたいな。(笑) それでほら、例えば、アイスコーヒーあったから、アイスコーヒー飲みたいって言うんだったらいいんですよ。それが、冷蔵庫パカッと開けて、閉めて、何か飲みたいって。「何か」ってさあ。今自分で開

けたんだから、何か飲むもの出して、飲んだらいいんじゃない？ って。(笑) 子どものことも、受験とかも、勉強のことも、ほんとーに、ノートタッチだったから、ほんとに私よく一人で育ててきたって感じで。(笑) だから、急にパパが手伝うようになっただから、二番目の子がテニスしてて、普通に送迎がいっぱいあるんですよ。行き、帰り、いろんなコート、学校だけじゃなくて、あっちのテニスコート、こっちのテニスコートって。それで、埼玉の熊谷まで行ったりするんで、山形とか盛岡とか、ふつうに日帰りで遠征で行くんです。県外に行くときは、お父さんが車出して、うちだけ、私でした。もういいって思っていたんだけど、病氣してからは主人が、「じゃ、そういうのもする」って言うんで、やらせてただけで、やっぱり場所がわかんないから、私が結局一緒に行かなきゃならなくて。なおかつタバコ吸ったりするんですよ、子ども乗せるのに。だから、「お願いだからやめて」って言ったたら、今度は乗る前に吸って行くようになったら、乗る前に吸っても匂いがね。だから、私も不快感が

大！ みたいな。(笑) だんだん面倒くさくなって、子どもも娘も、「なんか、パパだといやだから、ママ(車)出して」って言うんで一回協力したんだけど。近頃は私も、寝ている主人を起こすのも面倒くさいので自分で車を出したほうが早い、どうせ付いて行くんだしと思って。なんとかやれるし、意外とついでにテニスしている子どもの姿見たりするから、楽しくていいかなと。できるところ、できるぶんだけね。

看護師 旦那さんは手伝っていたけど、元のパターンに戻りつつあるって感じですね。

Cさん (笑) 結局は、戻りつつあるって感じ。でも、ゴミは出してもらおう(笑)。

こんなこと言うとあれなんですけど、旦那は文句が多いから。お願いって言って、私だったら、「うん、いいよ」って普通に言うじゃないですか。でも、何かお願いしても、「え？」って。「え？」って何！ みたいな。で、「やれ忙しいだの、これがやってないだの」って。例えば、私が子どものお弁当作っていて、一番下起こさなきゃならない時間なんだけど、そうすると卵焦げちゃうから。で、旦那がさ、その辺ブラッ

としているから、「ごめん〇〇ちゃんのこと起こしてきて」って、言うのと、「え？」って。「今俺タバコ吸いに行こうと思っっていたんだけど？」って言うから、タバコ吸うのと子ども起こすのとそんなに時間、一分も変わらないだろう！ って思いながら、もうっ、なんか、起こしに行っても、起きないと怒って戻ってくるし、あとあと、面倒くさくなるから、じゃあもういいって、私が卵焼くのを一旦やめて、(子どもを)起こしに行って、もう(私は)体も痛いのに、二階なのにもう！ とか思いながら。

文句言いながらもやるから、文句言わなければいいのになって。旦那のお母さんも、息子に頼みたくないから、私に言うんだね。息子が休みたけど、「お墓参りの車出しとか、息子に頼むと文句が多いから、ちょっと、ママやってくんない？」みたいな感じ。私も分かっているから、「いいですよ、お義母さん」って。「じゃ二人で、美味しいものでも食べて帰るかね」なんて言っ(笑) そんな感じですよ。だから、病院に(主人が)来た時に看護師さんが、退院する時にね、前から私の主人を捕まえて、

「それじゃだめだと、もっと手伝え」と。(笑) それで、なんか説得してくれたみたいな。だから、勇氣あるなと。(笑) なんか、看護師さんって、ここまでしてくれるんだって。(笑) 私ですら、ほら、二十年連れ添った妻でさえ言えないことを。(笑)

看護師 連れ添ってないからこそ、言えることもありますね(笑)。

Cさん ほんと？ えらいなあって思っちゃったあ、ほんとうに。退院する時の説明の時も、私たち、ちょっとケンカ始まっちゃって(笑) たぶん、看護師さん、独身ですよ？ その、なんていうか、私たちのあまりの熾烈な言い争いに、ッシーン……って、なっちゃって。なんか、結婚前なのに悪いわって、悪いところ見せてしまったわって、ちょっと反省。そういうわけで、なんか、この病院に入院して良かったです。ほんとに、看護師さんから夫に言ってもらって。

看護師 今は、旦那さんをお願いできるようになりましたか？

Cさん うん。自分がこれはちょっとあんまりできないなあってところは、お願いして

39

ました。いずれ、ほら、文句たらたらでも、最後はやってくれるから(笑)。

子どもとの入浴。手術前は一緒に入っていましたが、手術後は入らなくなりました。子どもは一緒に入ることができるとの心待ちにしていた。

看護師 退院後、一番下のお子さんはお風呂にだれと一緒に入っていたんですか？

Cさん 最初は、お姉ちゃんが入ったり。でも、ひとりずつお風呂に入ってもいいよねって。下の子どもだんだん、お風呂のドアを開けておいてもらって入るようになっていきました。お風呂ひとりだと怖いから、髪を洗ってる時に、後ろにだれか立ってるみたいな気がするっていう、テレビ？ 漫画とか見ちゃって、「今、ポチャって音がした！」って言ったりしました。ドアの向こうにお姉ちゃんに居てもらって、「見ててね」って、お姉ちゃんが髪の毛乾かしながら、一緒に下の子も見ているみたい。でも、今はすっかりひとりで入るようになった。私

が、「一緒に入る？」って言うと、○○はやっぱり手術した胸を見るのが、ちょっと怖いみたいで、「もうちょっとしたらね」って言います。でも、「ママ温泉とかにも行けるようになるんだよね」って言われて、……うーん、「そうだね」って。うーん、温泉は……って。

看護師 手術前は、下のお子さんは、毎回Cさんと一緒にお風呂に入っていたのですか？

Cさん はい。毎回。

看護師 手術後に、一緒にお風呂に入れない話は、Cさんからしたのですか？

Cさん うん、その時は、「ママまだシャワーしか入れないから、ごめんね」って。「ママすぐ上がってくるから、そのあと、○○ちゃん入りたい」って、言って。まだ、入れないの、まだ入れないのって言うていたんだけど、んー……。なんか、おばあちゃんかと思うんだけど、おばあちゃんか、私に、手術したところに、ばい菌とかが入ったら困るから、一番最初のお風呂に入んなさいって言うのを、子どもにも言うてみたい。おばあちゃんがそういう風

に言っていたから、「いいよ、ママ入って」って。しばらくして、(子どもに)「まだなの？」って言われた時に、「うん、まだもうちょっと」って言って、退院して三週間くらいして、実はねって話したら、「えーっ」って、びっくりしていました。下の子は、だから私が一緒にお風呂に入れないんだなって、納得してるのかもしれない。

子どもの『成長』

一番下の、のんびりな子が、一番大人になったかな。

看護師 下のお子さんは、手術した胸を見ていないのですか？

Cさん 見てない。「見せて、見せて」って、こう、半そでとかね、襟ぐりとか開いてたりするでしょう。私は、「いいよ、見ても」って感じだけど。そうすると、なんか、子どものほうで、「んー、もう少ししたら」って見ないのね、お姉ちゃんとふたりとも。「(手術した胸が)ないんだよね？」とは言うんだけど。一番下の子なんかは、すごく、おっぱいが好きなんです。小っちゃい時から下着売り場なんて行っちゃうと、

ブラジャーがあると、「わぁ〜い」って言って、触っちゃうんですよ。「かわいいよ〜」って。自分のブラジャーが欲しいって言って。リトルマーメイドの水着のやつ、なんかこう、パットが入ったブラ、貝殻のブラを、本に載っていて、作ってくれて言われて。私、作ったの。ホタテガイみたいな。こう縫って紐つけて、後ろで結ぶようにして。そしたらそれを、幼稚園に入る前だったけど、絶対外に着けて行きたいって言って、お姉ちゃんの幼稚園の迎えの時に、Tシャツの上に着けて行って。(笑) 幼稚園の先生とかに、「わぁ、〇〇ちゃん、かわいいこと〜」なんて言われて、調子に乗っちゃって、夏の間中、毎日付けてて。それくらい、胸が好きです。入院する前も、「ママー」って、来ていました。手術後にスキンシップで何がないかというのと、(子どもは)来るんだけど、あ、胸に触っちゃいけないのかな? と思うみたいで、私の手前で止まるから、「あ、いいんだよ、ママの胸触ってもパットだけ」って言って(笑)。こっち(健側)は本物だけだって。だから、子どもは胸には触らないで、私の

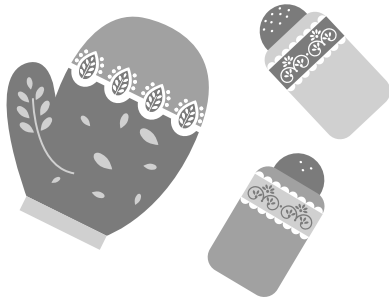
二の腕がすごいやわらかいから、「いい感じ〜」って(二の腕を)触って。こっちにお姉ちゃん、こっちに妹って感じで両脇にね。

看護師 下のお子さんだけでなく、お姉ちゃんもなんですね。

Cさん お姉ちゃんもです。

看護師 退院後はスキンシップが、変わったのですね。

Cさん うん。こう、ギュってしても来なくなっただかもしれない。退院して二か月から三か月の間だと思うけど、私のほうがわずかな間だったんだけど、子どものことをギュってできなくて。気にしないでやってあげるべきだったかもしれないって思ってる。



その時にやっぱり私が、手術したところが痛い……っていうのもあったし。自分の身体じゃないみたいだったから、どうしても、ギュっていうのができなくて、退院してから。今はもうだいぶ戻ってきたんだけど、特に、そんなに違和感もないんだけど。それがなくなると、そうしたら、下の子のほうは、「あ、でも、あたしも、ちょっとお姉さんになったから」みたいな感じだね。「(抱きしめられることは)なんかいい(結構)です」みたいな。私のほうが淋しいかなんて。

看護師 お姉ちゃんと下のおさんは、Cさんの(病気のこと)ことを話していたりしますか?

Cさん お姉ちゃんとはしてないと思う。お姉ちゃんも忙しい、部活があるし。今日も早朝からいなくて、夕方帰りで。帰って来て宿題して寝るって感じだから。特にその買い物行った時とかに、お姉ちゃんが一番気が利く子で、妹とかがぼんやりしてる、「ほら、そっち持って、ママ持ってるから」って言うてるかなあ。お姉ちゃんは、すごく優しい子だからね。だから、旦那が

文句をぶちぶち言っている、「あんなの気にしないでいいから」って言うてくれている(笑)。お姉ちゃんも旦那にいろいろ言われているの、「なんだ！こんなに散らかして、歩く場所ねーな」ってね。そうなの。お姉ちゃんがいるからね、やっていけるかなって(笑)

看護師 お姉ちゃんが、Cさんと旦那さんの間に、うまく入っているのですね。

この子たちが大人になるまで元気でいられるかは分からないから、小さい時からちゃんと何でもできるようにしておこうと思う。

看護師 退院後のコミュニケーションが変わったと感じるのは、どんなところですか？

Cさん コミュニケーションっていうのが、何ていうんでしょう、そう、前までやたら、病気のテレビを覗いていた子たちだった。タケシの家庭の医学、みたいなやつ。もう怖いから、やめようよって、私が言っていたくらいで、真剣になって二人で見てたんだけど。それが、例えば「乳がん」とかだと

もうピッと、違うチャンネルに(換えた)。たぶん、子どもたちが大丈夫だと思っていてもなんかね……。それで、番組の最後の方だけ見たのかな？ で、意外と(乳がんの病気は)良くないみたい、ずっと気を付けなければならぬって内容を観ちゃって、そしたらもう、怖いみたいで。夜、「ママは大丈夫だね？」って言っていた。

「うん、ママは大丈夫だよって、気を付けるからね」って言って。もう、それからはもう健康のテレビは観ない。乳がんじゃなくても。あの、うっかりチャンネル回しちゃった時も、すぐ速攻変えるみたい。

看護師 Cさんという時だけですか？

Cさん どうだろう……。でも、居ても居なくても、観ないかな。

看護師 退院後お子さんたちが、Cさんに対して変化している感じがあるのですか？

Cさん うん……。でも、なんだろう、子どもたちだけではなくて私もかな。前よりはあんまり子どもに対して構わなくなったっていうか、できるところはひとりやってもらうって、やらせなくっちゃっていうことは思うようになったんです。もしかしたら、

この人たちが大人になるまで元気でいられるかは分からないから、小さい時からちゃんと何でもできるようにしておこうと思う。

看護師 お子さんたちだけでなく、Cさんも変わったんですね。おねえちゃんから、病気を聞いてくることはありますか？

Cさん 最近はないです。「あと、何回入院するの、もうちょっとだね」って。いつも毎年ドイツニーラントに行っていたから、今年も行けてなくなってる。お姉ちゃんに、「秋になったら行くの？」って言われたけど、「お母さん、ツラ(かつら)がとれないから行けないんだわ」って。だってね、いろんな乗り物に乗って、かつらがピューって飛んで行ったら困るし。ほら、そう、パッチンってする髪の毛もないしさあ、「来年になったらね」って。

看護師 家族でのイベントも、変更したのですね。家族での買い物とかは、変わりましたか？

Cさん そうですね。買い物なんかは、いつも私ひとりでしたけど。ま、今もひとりで行くこともあるけど、子どもがいたら、子どもがどっちかが一緒に言っ

て、重いものは土日に主人が買ってきて。炊事はお兄ちゃんが。お兄ちゃん、もともと、すごい、家事が好きなんですよ。家事が好きっていうか料理が好きで。意外と私が入院して居ない時だと、おばあちゃんが来ているけど、でも、おばあちゃん居ない時は、息子がすごいなんか、ちゃんと作っていたみたいで。あの、写メってよこすんです（写真をメールで送付する）。だから、普通に生姜焼きとか、レタスのサラダがあって、トマト切ってお味噌汁もあって煮つけがあってみたいな。なんだ、お母さん作るよりちゃんと作っているみたいだな（笑）。私今まで、何回か入院してるからその時に覚えて、お兄ちゃんが、小学生の時から作っていた。もともと、好きみたいな。一緒に家に居る時から作っていたし、家庭科の授業では、習う前から一通り出来ていたんです。休みの日は、「パン作るう」と言っていて、私とお兄ちゃんと二人で、コネコネコネコネ。コネコネやって膨らんで、「わ、すごい！こんなになるんだ〜」って、だんだん上手になってきちゃって、「なんか受験やめて、パン屋の修行で

も行くかな？」なんて（笑）。（焼いたパンを）近所の友達の家にお裾分けしたりして。お兄ちゃんに関しては、手伝うところは手伝ってくれるから、そんなに心配もしていない。だから私も楽ですね。うんと（とても）心配されても、自分のことをしてほしいから。お兄ちゃんが忙しかった時に入院して、抗がん剤していたから、悪かったな……って思ってた。だから、この先はそういうこともないようにしたいなってね。

看護師 ほかのお子さんたちも、家事とか協力しますか？

Cさん ん、一番下の子は、すごいのがびりした子で、ほっとくと、ほんとう、学校に間に合わないんですね。早く着替えて、靴下履いて、早く行ってーって思っていたんだけど。だけど、さすがに、それは私が居ないと、おばあちゃんにしてもらいたくなかったみたいで、（下の子は）自分でするように。退院してきてからも、ひとり着替えて宿題なんかも、時間はかかるんですけど何とか終わらせています。（前は）学校にもいっつも遅れそうになっ

て、送ってって言うっていたのが、「八時過ぎてるけど大丈夫？」って言ったたら、「大丈夫だから、行ってくる」って、「行ってきまーす」って言ってね。たぶん走っていきんだと思うのだけど（笑）変わりましたね。一番下が一番大人になったかな。ちょっと心配性だけど、普通に学校に行くとか、行動は大人になったかなって。わたしの病気をとても心配して、夜眠れなくならないといいなあって。お姉ちゃんと下の子と一緒に寝るのだけど、下の子が、「ママ愛してるよ」って言うの。で、「ママも愛してるよ」って言うのと、「うん、うん」って。って、でも、寝れないと、また同じこと言うから、お姉ちゃんが、「もう！うるさい！」って（笑）うとうとってしてる時に、「愛してるよ、愛してるよ」じゃうるさいって思うんだろうな（笑）。だから、「〇〇はあれで、安心して、ちゃんと何にも言わなくなるから、もうちょっと我慢して」ってお姉ちゃんに言っています。そして、主人が遅いから私もそれに付き合っただけで、睡眠時間三時間くらいとかになっちゃうから、旦那のご飯とかはもう全部セット

して寝るだけにして、布団とかも敷いて、私は就寝中ですみたいな。お兄ちゃんが起きているから、お兄ちゃんが旦那が帰って来ると、足りないことやってくれて。なんかね、そうなの。旦那がね、役に立たないから、なんか子ども、頑張っしてつけちゃった？ なんだよね。お兄ちゃん夜遅くて、下の子があんまり髪も乾かしてないとか、歯磨きもしてないと、「ママが寝るのが遅くなるから、歯磨きして来い、ドライヤーかけて来い」って、ときばき指示をして、寝られるようにやってくれて。下の子は、私が言ってもね、「うーん、わかったあ〜」って、マンガ読んでいるから、さすがにお兄ちゃんに言われると、怒られるから、テキパキテキパキって。息子が小っちゃい時、旦那がずっと単身赴任で居なかったから、お父さん代わりで、下の子たちのことをおんぶしてくれていたの。一番下の子をおんぶして、私のご飯作っている間、おんぶして遊んでたりして。友達来ても、下の子を床に置いて、カードゲームしたり。たぶん、お父さん居なかったからだね。

同じ病状の人に「どうしてやらないの？ 抗がん剤治療なんて、一年はあつという間よ」って言われて、そうかもしれないなあと思った。

看護師 Cさんは、医療者からの情報提供で、どんな時に、どんな情報が欲しかったですか？

Cさん 病気だって言われて、私は一応母乳はよく出たんですよ。乳母ができるんじゃないかってくらい（笑）ほんとうに。双子でもよかったかもって。病院でも、搾乳器を使って、出して。その時乳腺炎になったから、今考えてみると、ちゃんと気をつけてればよかったんだなって思う。三人ともよく出て残った分も搾乳して、お酒も飲まないし煙草も吸わないしお肉も好きじゃないし、毎年検診も受けてたし、自分でも毎月自己検診していた。だから、まさか……って思っ、いざ病院にいったら、……（乳がん）そうだろうねって言われて。PET検査受けて、「ふたつあるよ」って言われて、一個でも、小さくても全摘にしようと思っ、いたんだけど、友達がそういう人がいて、

全摘したって聞いてたから。やっぱり残しちゃいけないって思って、全摘しなくちゃって。ただ、その間にネットでちょっと調べてみたんですよ。どうしても本屋さんに行き気になれなくて。近くの本屋に行って、もし、知っている人に見られたら嫌じゃないですか。それで、ネットで見たら、やっぱり、あんまりいいことが書いてなくて、見れば見るほど怖くなっちゃって。ある程度その、ステージとか何センチあったらこれくらいとかっていうのだけ頭に入れて、それで、もうネットは二、三回くらいパースと見たくらいでやめて。あとは、とにかく先生に聞いてみようって思っ。その後、手術したんですけど、こんなに手術した方の胸の感覚がないと思いませんでした。だから、それにすぐくびっくりして。このあたり（手術した胸）全体が、それこそ、他の人のような違和感があって、今は一点だけに（違和感の感覚が）小さくなって。手術前には、（手術後に）こんなに身体が変わるんだって、ちょっと分かんなくなっ。手術してすぐく落ち込んだんやって。

（そして）抗がん剤を、たぶんしなきゃな



んないんだろうって頭の隅では分かっているものの、やっぱりしたくないっていう気持ちのほうが強くて。たまたま、一緒に手術した人と、似たような病状の人がいたんです。その人は、「私はね、化学療法をやるつもりでいる」って。私は家のことがあったから、全部いろんな結果が出てからにするって言ったたら、「どうしてやらないの？」って、「(抗がん剤) 治療期間なんて、一年はあつという間よ」って、その時言われて、そうなのかもしれないなあって思いました。たまたま、その時に一年前に私と同じ日に手術した人が、抗がん剤をやっているって髪がこのくらい生えたよ、半年経っ

てこれくらい生えたよ、ショートカットになったよっていう人が入院していました。あ、そっか。今(抗がん剤) やるとこのくらいの長さになるんだと思って、なんか、漠然と聞くのも、一回目ってあんまり頭に入らないみたいで、だんだん二回三回って聞いていくうちに、このくらいなんだな。あ、そういう風にするんだ、っていうのがだんだん分かった感じ。退院して次の外来の時には、じゃあ結果が全部出て先生に、「今は(抗がん剤) やりたいと思います」って(自分で) 言えました。たぶん、一回の説明では分かんないのかもしれないなってでも、周りの患者さんで、いっぱい調べてくる人もいたけど、私は本当に何も見ないで入院して、退院してから全然知らない本屋さんに行って乳がんの本、専門の本見たりして。でも、やっぱり怖くてあんまりステージがすすんだところかも、見たくないって思って。自分なりに身体に気をつけようって思って、そう思って過ごせばいいや。だから、今はだんだん忘れていくことも多いのですけど、だからなんだろう。全部取ったんだから、感覚だってもち

ろんないよねっていう情報が欲しかったかな。抗がん剤をして、どのくらいで髪が生えてくるのか、やっぱり一回では分からなくって、何回でも説明があると良かったかなあって。今思えば。でも、その時々で看護師さんに聞いて、どっちかっていうと看護師さんに聞いて。看護師さんを入院している間に何度も捕まえて、あれはどうなんだ、これはどうなんだって聞いて、教えてもらうことが私は多くって。そう！ そうなの！ この病院に来て、びっくりしたのは何聞いても看護師さんたちが跪いて聞いてくれて。私、いろいろ、他の病院にも入院したことあるんですけど、他の病院の看護師のみなさんは、「それはあとで先生に聞いて下さい」という感じが多かったのが、ここでは、看護師さんが跪いて私の質問に答えてくれるって、よく話を聞いてくれるってというのが初めびっくりしちゃうって、そうそうそう！ そうなんですよ。なんか、すごく良かったです。すごく良かったっていうか、すごく話しやすくて、聞きやすかったです。

私は入院してから、病氣と向き合っ
たんです。最初はなんでそんな（病
氣のことを子ども）に言わなくちゃ
ならないのだろう？ 私が言いたく
ないのだから、ほっといてくれれば
いいのになあつて。でも今はやつぱ
り、子どもにちゃんと病氣を言うこ
とができて良かったです。

Cさん あの、私は入院して、入院してか
ら病氣と向き合っただんです。入院する前
はやっぱり悲しくって、旦那は帰って来な
いし子どもの前では普通にしなきゃならな
いし。仕事もしてたし、どこかで泣いたりっ
ていうことは一回もなかった。だから、入
院して看護師さんと話して、病氣と向き合っ
ていろいろと考えて、子どものこととか。
本当にお世話になったと思います。そうじゃ
なかったら、子どもたちには、まだ病氣の
ことを言っていないと思うんですよ。子ども
には適当にごまかして。看護師さんに、
「子どもに、言ったほうがいいよ、言った
ほうがいいよ」って言われて。でも、最初
は、私は言いたくない……、そう思ってい

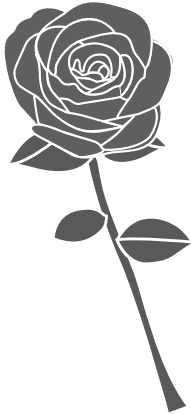
ただけど……、結果的にはやっぱり言っ
て良かった。あの……、最初はなんでそん
な言わなくちゃならないんだろう？ と
か、やっぱりどうしても私が言いたくない
んだから、ほっといてくれればいいのになあ
つて。でも……、（看護師は）私と一生懸命
向き合ってくれて、子どもには言ったほう
がいいって言われて。退院する時にも言う
気はなかったの。隠せるものだったら……、
子どもには言わないって。たまたま、お兄
ちゃんのお母さんとか、二番目の
子の同級生の同じクラスの子のお母さんも、
乳がんで亡くなっていて、意外とね聞くと
周りにいるんだよね。だから、乳がんで死
んじやったりするんじゃないかなって思わ
れると嫌だから、言わないでおこうと思っ
ただけど。でも、家に帰って、子どもと
接してて、だんだんとね。もしかしたら言っ
たほうがいいかもしれないって、自分の気
持ちが落ち着いて明るく、「お母さん乳が
んだっただけど、手術したから大丈夫だよ」っ
て、言えるようになったら、いいタイミン
グで、言おうって思えるようになったん
です。

看護師 そうだったのですね。具体的なきつ
かけがあったわけではなく、だんだんとC
さんの中で、（子どもに伝えよう）という
気持ちになったのですかね？

Cさん だんだんと、なっていました。
それで、言ってみて言ってみてよかったです。
（看護師に）病棟にそういう本があるから、
子どもに話す用の本があるからって言われ
て、あとで（絵本）見てねって言われた時
は、「嫌、見たくない」って、思ってた。
でも、何回も話されるうちに、本のあると
ころを通りかかった時に、ちょっとづつ、
ちょっとづつ見るようになって。たぶん、
本のように上手に伝えられないけど、説
明できないかもしれないなあって思ったけ
ど、でも、なんとなく頭の隅に入っていたっ
てこともあるし。うん……、やっぱり言わ
ないでいて、あの……、子どもに余計な心
配をさせるっていうのもあるし。普段の生
活の中で、どうしても私ができないこと、
重いもの持ったりとか、一緒にテニスしよ
うって言われるのも、今はしばらくできな
いし。だから、どこまでが出来て、どこま
でが出来ないっていうのを、やっぱり子ど

もも知っておかないと今度私自身が辛くなって、「お母さん、こんなに大変なのに！」って、子どもに怒るのもちょっと嫌だなと。そういうことってありますよね。自分の身体が辛い時にああでもない、こうでもないって言うてしまうこと。だから、そういうことをなくすためにも子どもに言って、子どもには手伝ってもらったほうが、かえって自分も子どもも良いかもしれないというのを、退院してから三週間くらいに思ったのかな。そうそう、だから、退院の時に旦那に言ってくれた看護師さんには、退院する時に、「絶対言いません」って言うていたんだけどね。あの看護師さん、きつと、私の担当だったんだよね？ こんな患者さんを受け持っちゃってね（笑）。私ね、本当に申し訳なかったなあ〜ってね。こんなに意固地になって、「絶対に言わない！」なんて言うているから（笑）大変だったよなあ〜あって。それに、あんな旦那でさあ……。だから、会うたびにちょっと恥ずかしくなるの（笑）誰もこんな人いないよねって。それから、他の看護師さんからも、お子さんに話してないんですよね？ って、心配

している話してくれて。やっぱり言ったほうがいいっていうニュアンスで。看護師さんの皆さんが、そうだったので、だから、何となく言ったほうがいいのかも？ みたいな。そんなふうになったのかもしれない。言いたくはないけど、でも言ってみてもいいかも？ みたいな。看護師さんたちが親身になって、子どもにこう言ったほうがいいと思うよ、自分も楽だと思ってる、こういう本もあるよって、家族でフォローしていかなきゃならない病気なんだよって、言うてもらったことが良かったと思う。確かにそうだよって、手術して終わりじゃないし、そのあとでも病院来なきゃならない。また、お母さん病院ですってなったら、「なんで？」って、やっぱり子ども思うだ



ろうし。その、いつもみんなの目を盗んで病院に来るわけにいかないし。うん。だから、子どもに伝えたことで、かえってすっきりしたかな。こんなに看護師さんたちに親切にしていたら、ほんとうにどうもありがとうございます（笑）。私ほんとうに思うの。入院して初めて病氣と向き合ったから、泣いたこともなかったし、すごい悲しくって、悲しくって、怖いし、この先……。隣の方も抗がん剤（治療）で来て、それがすごく辛い、それがどうだとか、やっぱり聞かえてくると、耳年増じゃないけど病氣年増っていうの？ もう、そういうことしたらこういう風になるんだって妄想？ 頭の中の。この薬だとしびれがきて、ぶつかっても痛くなくて、気が付いたら怪我してるんだよねとか。夕方になると、みんな悲しくなるって言うていて、病院に来てたほうがいいんだよねって。夕方一人になって、ご飯作んなきゃなんないのに、なんかだるくてできないって。それ聞いて、なんか、怖くて、怖くて。自分の中での時は、パニックじゃないけど、いろんな事考えちゃって。だから……すごい泣いていました。やつ

ばり手術で取るまでは、ついこないだまで
元気だったのに本当に元気でなんでもないと
思っていたのが、そんなに大変な病気だっ
たんだって思いました。でも、入院してい
ろいろ聞いて、だんだん納得できるようにな
ってきて。ただこの先どうなるのだろうか
と。頭の中では分かっているけど、生
存率って言うてもその時に生きているだけ
で、そのあと、また再発したり、抗がん剤
している人も人数に入っているじゃないで
すか。だから、これよりはもっとはるかに
低いんだらうなって思ったりもするし。で
も、ものすごくステージが進んでしまっ
ている人のなかでも、生存率は一〇パーセン
ト？ 二〇パーセント？ と聞くと、こん
なに進んでいる人でも生きていらっしやる
人もいるんだあって思って。だから、あん
まり悲しんだりしてちゃいけないんだあつ
て（思う）。やっぱり、元気で気をつけよ
うって。だから、抗がん剤も受けようって
思ったんです。いろいろ聞いて、そっか何
かあった時、あの時やらなかったからって
なるよりも、とりあえずすること、やるこ
とやって、だからいいってことにはならな

いかもしれないけど、後悔しないようにし
たほうがいいのかなあって思ったりしまし
た。以外と禿げ頭になってからは、禿げを
楽しんでるっていう（笑）。この間点滴
の間隔を二週間空けたら生えてきちゃって、
ほんとに生えるんだあって思って。よく、
小っちゃい子の坊主頭って、こう、触ると
気持ちいいでしょ？ シャワシャワって。
たわしじゃないけど。それが自分の頭で
きるって（笑）もう触り放題みたいな。
で、下の子たちも喜んで、「ママちよつと
触らせてー。気持ちいいわぁ」って。また
点滴して、ちよつと抜けてきちゃっていま
すけど。そんな感じ。
看護師 そうだったのですね。退院直後に、
（子どもと）お風呂に入れなかった、一番
の理由は何でしたか？
Cさん 帰ってすぐは、どうしても、すご
く（手術した胸に）違和感があるんですよ。
それこそ手術したばかりの時は、エレベ
ーター乗るのも怖かった。どこかにぶつか
たら、すごいことになるから、絶対人に
も、だれにも会いたくない感じになっちゃ
って。ほんとうに、何て言ったらいいか、分

かんないんですけど、胸の感覚がなくなって
痛いし。だから、退院直後も（感覚が）ザ
ワザワして。とてもその状態で子どもと一
緒に入らうっていうのは、全く頭にはなく
て。だんだん違和感も一カ月くらいして落
ち着いてきて、前より少し範囲が小さくな
たと思って、それで子どもにも病気を言え
るようになったの。気のせいかもしれない
けど、最初手術した胸を洗うこともできな
くって。でも、感覚が戻るにつれて自分
も洗えるようになってきたから、感覚が戻
った部分をマッサージするようになったら



(違和感の範囲が) だんだん小さくなってきたんですよ。それで、今なら伝えられるかも、大丈夫かもしれないって。だから、帰ったばかりっていうのは、ザワザワもあるし、そうだ、バランスが取れなかったんです。退院して一週間かな、でも、一週間だけでしたけど、胸が痛くて、きゅーってくるんですよ。で、プチって切れるんじゃないかってくらい痛くて。だから、家事とかの途中で休んで、ちょっと起きて、何かしたら横になって休んで痛み取れたってなったらまた起きてって、家事を繰り返してたからそういうバランスが取れなくて、余裕がなかったですね。最初は大丈夫だっと思ってたけど、退院して一週間くらいは、どうしよう、これって一生なのかなって、思ったりして。でも一週間したら慣れてきて、今はもう大丈夫です。だから、私は、退院直後すぐに、お風呂に子どもと一緒に

入ることは考えなかった。退院直後は、下の子はひとりで、(ドアを) 開けて入っていた。ただ、これが逆にもっと小さかったら、一緒に入っていたかもしれない。看護師 今下の子が、一緒に入りたと言ったらどうですか？

Cさん もう、ばっ！ って。(両手広げて) カモン！ みたいな感じで。行けそうですね(笑)。でも朝だれもない時間に着替えをするんですけど、たまにねお姉ちゃんが早く行かなくちゃならないから一緒に起きて、脱衣所で二人になると、やっぱり背を向けてちょこちょこやってしている自分がいて。娘は娘で、「はっ、見えた！」みたいな。「え、見えた？」とか。それは、まだやっぱりね、見たいような驚くような？ 見ちゃ申し訳ないようなそんな気持ちみたい、お姉ちゃんは。たぶん、手術前から、「もうお母さん取っちゃうからね」って、

もうあっけらかんと言っていればね。そこをやっぱり言えないで入院して、いつ言おう、いつ言おうってタイミングと、その自分の中のごわごわ感が合うときがなくて、それで言えなかったっていうのもあるから、「お母さんこういう病気になったけど、手術すれば治るから、取ってきちゃうけど一緒に入れるからね」ぐらいにね言えたらね。こっちが、あんまりにもすっごい気持ちいいから、それが伝わっちゃったかなって。軽く言っちゃえば、たぶん子どもも、「あ、そうなんだ」って、ぐらいになったかもあって。今にして思えば。でも、今はやっぱり、子どもにちゃんと病気を言えて良かったです。

看護師 貴重なお話を、ありがとうございます。

— 終 —